

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		たすきつず しおみ										
公表日												
2025 年 8 月 27 日												
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点						
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	-	・事業所の面積が195㎡ありとても広く都内屈指の広さだと認識している。 ・指定基準を満たしている。	今後も療育スペースの広さを活用し、様々な活動に取り組んでいく。						
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	7	-	・指定基準を遵守している。	安心して通所していただけるように基準を遵守していく						
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	-	・玄関や各部屋へのアクセスも段差なし ・「休憩のための部屋」等、掲示物により通所児童にもわかりやすいようにしている。	事業所は1階に位置しております。玄関や各部屋、トイレなどにも段差はございません。						
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	-	・毎日、清掃や消毒をおこない、気持ちよく過ごせる環境を作っている。							
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	-	・静養ルームを設置している。							
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	1	・必要に応じて話し合いができている。 ・終礼で振り返りをおこなっている。	話し合いの場は設けているが、勤務時間との兼ね合いにより非常勤職員の参加まで行き届いていない場合もある。						
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	-	会議の場を設け、職員全体で内容を把握し、話し合いをおこなうことができている。							
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	・終礼等で意見交換や共有はできている。 ・終礼等既存の時間以外でもゆっくり話せる場があるとさらに連携がとりやすくなると思う。	既存の場で情報共有や意見交換を継続していきながら、必要に応じてその他の時間で情報共有ができるよう時間を設けていく。						
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1	・前回、令和5年度に実施	今後も定期的なサイクルで実施する。						
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	6	1	・研修の機会は多い。 ・出勤時間の兼ね合いで常勤と非常勤で差があるのでは？	今後もより良い支援を目指し研修の機会を確保していく。 オンラインでの動画視聴なども活用し様々な出勤時間の職員でも研修を受ける機会を増やせるようにする。						
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	-	・毎月、公表している。							
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	-								
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	-	・必ずモニタリング会議をおこない、共通認識のもとで作成している。							
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	-	・個別支援計画（長期・短期目標・具体的な支援内容）が記載されたファイルが個々のあり、毎日利用児童の記録を取っているため、必ず目にする形になっており、計画に沿った支援、評価をおこなえている。							
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	-	・フェイスシートやアセスメントシート 行動観察シート等、工夫して活用することができている。							
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	-	・支援内容を細かく設定している。							
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	-	・職員で毎月、活動案を提出し立案をおこなっている。							

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	-	・常に新しい視点でプログラムを考えられていると思う	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	-	・集団活動を中心とし、その中で個別の目標に向けた支援をおこなっている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	・夏休みなどでも時間を作り共有できている	学校休業日でも活動担当の職員が中に残り非常勤の職員へ申し送りをするなど情報共有していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	-	・毎日の終礼を通して共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	-	・個別ファイル（項目14のもの）を活用し検証・改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	-		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせる支援を行っているか。	7	-	・様々な活動に取り組んでいる。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	-	・「遊び選択絵カード」など活用することで自己選択・発信の機会が広がっている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	-		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1	・やりとりが多いのは「児童発達支援センター」「相談支援事業所」「学校」	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	-	・保護者を通しておこなえている。 ・学校行事など学校とも確認して連携が取れている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	1	・「児童発達支援事業所」とは連携がとれている。 ・必要に応じて情報共有をしている。	「保育所」や「幼稚園」との情報共有がない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	6	・該当児童がいない	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	-	・「児童発達支援センター」と連携を図っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	3	・「公園」などによって、そこで遊んでいた近所の子どもたちと遊ぶことがある。 ・子どもではないが地域の「通所生活介護」の方々と交流がある。	外出先での交流はあるが「放課後児童クラブ」等と打ち合わせをおこない企画としての交流はない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	6	・責任者は参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	-		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	2	・親同士が交流できるイベントを開催している。 ・情報提供もおこなっているが「研修」と題して開催したことがない	面談をととして情報提供など必要に応じておこなっているが「研修」として開催していない。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	-	・見学時や契約時を通して説明をしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	-	・支援や面談時を通して確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	-	・個別面談を定期的に実施し、その際に同意を得ている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	-	・必要に応じておこなっている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7	-	・子どもの活動を参観しつつ、親同士で交流できるイベントを定期的に行っている。 ・兄弟姉妹が参加できるイベントもおこなっている。 ・体制を整えている。	交流の機会は設けているが「父母の会」はない。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	-		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	-		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	-		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	-	・必要に応じて視覚支援ツールなどを活用	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	-	・同じ地域の「通所生活介護事業所」の方々をイベントに招いたりしている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1	・マニュアルは整備できている。 ・児童を交えての訓練はおこなえているが職員のみでの確認の場も増やしていきたい。	「各種マニュアル」は整備できているが周知徹底のために全職員がいつでも確認しやすいように共有システムなどのツールにアップしていく方法もある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1	・定期的に避難訓練を実施している。 ・地域の「防災体験施設」も定期的に利用している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	-	・フェイスシートや保護者からの聞き取りにより状況の確認をおこなっている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	3	・保護者へ聞き取りをおこなっている。 ・意見書まではもらっていない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	-	・支援前に想定されうる危険など情報共有をおこない支援することができている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	-		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	-	・終礼等で事例の共有はできている。	ヒヤリハットの報告、検討などはおこなえているがデータとしてどのように残していくか検討中
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	-	・定期的に研修をおこなっている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	-		